

農地所有適格法人報告書

金ヶ崎町農業委員会会長 様

毎事業年度の終了後3カ月以内に提出してください。

第 号
〇年 〇月 〇日

主たる事務所の所在地 金ヶ崎町〇〇〇〇〇番地〇
名称及び代表者氏名 農事組合法人〇〇〇
代表理事 〇〇 〇〇

下記のとおり農地法第 6 条第 1 項の規定に基づき報告します。

記

1 法人の概要

法人の名称及び代表者の氏名		農事組合法人〇〇〇 代表理事 〇〇 〇〇		
主たる事務所の所在地		金ヶ崎町〇〇〇〇〇番地〇		
経営面積計 (㎡)		所有農地の有無		有・無
		田	畑	採草放牧地
㎡		97,300 ㎡	4,000 ㎡	㎡
内 訳	市町村名 (金ヶ崎町)	99,000 ㎡	95,000 ㎡	4,000 ㎡
	市町村名 (〇〇市)	2,300 ㎡	2,300 ㎡	㎡
	市町村名 ()	㎡	㎡	㎡
法人形態		農事組合法人		

2 農地法第 2 条第 3 項第 1 号関係

(1) 事業の種類

区分	農 業		左記農業に該当しない事業の内容
	生産する農畜産物	関連事業等の内容	
実績	水稻	農作業受託	
	大豆		
翌事業	水稻	農作業受託	
	大豆		

生産する農畜産物のうち、粗収益が50%を超える農畜産物の名称を記載。
(50%を超えない場合は粗収益の多いものから3つを記載)

(2) 売上高

年度	農業	左記農業に該当しない事業
報告対象年度の2年前(実績)	20,050,000円	
報告対象年度の1年前(実績)	22,300,000円	
報告対象年度(実績)	23,500,000円	
翌事業年度の計画	25,000,000円	

「(1)事業の種類」で記載した農業に該当しない事業の金額を記載

3 農地法第2条第3項第2号関係

構成員全ての状況

(1) 農業関係者(権利提供者、常時従事者、農作業委託者、農地中間管理機構、地方公共団体、農業協同組合、投資円滑化法に基づく承認会社等)

氏名又は名称	住所又は主たる事務所の所在地	国籍等		議決権の数	構成員が個人の場合は以下のいずれかの状況				農作業委託の内容
			在留資格又は特別永住者		農地等の提供面積 (㎡)		農業への年間従事日数		
					権利の種類	面積	直近実績	翌事業年度の計画	
金ヶ崎 太郎	金ヶ崎町西根〇〇	日本		1	利用権	7,500	250日	250日	
三ヶ尻 次郎	金ヶ崎町三ヶ尻〇	日本		1			220日	220日	
岩手 花子	金ヶ崎町六原〇〇	日本		1			150日	150日	
永沢 一	金ヶ崎町永沢〇〇	日本		1			60日	60日	

議決権の数の合計

4

農業関係者の議決権の割合

100%

その法人の行う農業に必要な年間総労働日数： 250日

(2) 農業関係者以外の者 ((1)以外の者)

氏名又は名称	住所又は主たる事務所の所在地	国籍等		議決権の数
			在留資格又は特別永住者	

議決権の数の合計

農業関係者以外の議決権の割合

(留意事項)

構成員であることを証する書面として、組員名簿又は株主名簿の写しを添付してください。

なお、農林漁業法人等に対する投資の円滑化に関する特別措置法(平成14年法律第52号)第5条に規定する承認会社を構成員とする農地所有適格法人である場合には、「その構成員が承認会社であることを証する書面」及び「その構成員の株主名簿の写し」を添付してください。

4 農地法第2条第3項第3号及び第4号関係

(1) 理事、取締役又は業務を執行する社員全ての農業への従事状況

氏名	住所	国籍等 在留資格 又は特別 永住者		役職	農業への年間従事日数		必要な農作業への 年間従事日数	
					直近実績	翌事業年度 の計画	直近実績	翌事業年度 の計画
三ヶ尻 次郎	金ヶ崎町〇〇番地	日本		理事	220	220	170	170

(2) 重要な使用人の農業への従事状況

氏名	住所	国籍等 在留資格 又は特別 永住者		役職	農業への年間従事日数		必要な農作業への 年間従事日数	
					直近実績	翌事業年度 の計画	直近実績	翌事業年度 の計画

〔添付書類〕

- ① 定款の写し
- ② 農事組合法人又は株式会社にあつてはその組合員名簿又は株主名簿の写し
- ③ 承認会社が構成員となつている場合には、その構成員が承認会社であることを証する書面及びその構成員の株主名簿の写し
- ④ その他参考となるべき書類（損益計算書の写し、出勤記録の写し、総会議事録の写し等）

(記載要領)

- 1 「農業」には、以下に掲げる「関連事業等」を含み、また、農作業のほか、労務管理や市場開拓等も含まれます。
 - (1) その法人が行う農業に関連する次に掲げる事業
 - ア 農畜産物を原料又は材料として使用する製造又は加工
 - イ 農畜産物若しくは林産物を変換して得られる電気又は農畜産物若しくは林産物を熱源とする熱の供給
 - ウ 農畜産物の貯蔵、運搬又は販売
 - エ 農業生産に必要な資材の製造
 - オ 農作業の受託
 - カ 農村滞在型余暇活動に利用される施設の設置及び運営並びに農村滞在型余暇活動を行う者を宿泊させること等農村滞在型余暇活動に必要な役務の提供
 - キ 農地に支柱を立てて設置する太陽光を電気に変換する設備の下で耕作を行う場合における当該設備による電気の供給
 - (2) 農業と併せ行う林業
 - (3) 農事組合法人等が行う共同利用施設の設置又は農作業の共同化に関する事業
- 2 「2(1)事業の種類」の「生産する農畜産物」欄には、法人の生産する農畜産物のうち、粗収益の 50%を超えるものと認められるものの名称を記載してください。なお、いずれの農畜産物の粗収益も 50%を超えない場合には、粗収益の多いものから順に 3つの農畜産物の名称を記載してください。
- 3 「2(2)売上高」の「農業」欄には、法人の行う耕作又は養畜の事業及び関連事業等の売上高の合計を記載し、それ以外の事業の売上高については、「左記農業に該当しない事業」欄に記載してください。
- 4 「3(1)農業関係者」は、農林漁業法人等に対する投資の円滑化に関する特別措置法第 5 条に規定する承認会社が構成員に含まれる場合には、その承認会社の株主の氏名又は名称及び株主ごとの議決権の数を記載してください。ここで、複数の承認会社が構成員となっている法人にあっては、承認会社ごとに区分して株主の状況を記載してください。
- 5 農地中間管理機構を通じて法人に農地等を提供している者が法人の構成員となっている場合、「3(1)農業関係者」の「農地等の提供面積 (㎡)」の「面積」欄には、その構成員が農地中間管理機構に使用貸借による権利又は賃借権を設定している農地等のうち、当該農地中間管理機構が当該法人に使用貸借による権利又は賃借権を設定している農地等の面積を記載してください。
- 6 2、3及び4の翌事業年度の計画の欄は、報告に係る事業年度の翌年度の計画を記載してください。
- 7 2の翌事業年度の計画、3の住所又は主たる事務所の所在地、国籍等及び翌事業年度の計画並びに4の国籍等及び翌事業年度の計画の各欄については、農地を所有する農地所有適格法人のみ記載してください(ただし、3の住所又は主たる事務所の所在地及び国籍等の各欄については、総株主の議決権の 100 分の 5 以上を有する株主又は出資の総額の 100 分の 5 以上に相当する出資をしている者に限る。)。国籍等は、住民基本台帳法(昭和 42 年法律第 81 号)第 30 条の 45 に規定する国籍等(日本国籍の場合は、「日本」)を記載するとともに、中長期在留者にあつては在留資格、特別永住者にあつてはその旨を併せて記載してください。法人にあつては、その設立に当たって準拠した法令を制定した国(内国法人の場合は、「日本」)を記載してください。なお、4の(2)については、4の(1)の理事等のうち、法人の農業に従事する者(原則年間 150 日以上)であつて、かつ、必要な農作業に農地法施行規則第 8 条に規定する日数(原則年間 60 日)以上従事する者がいない場合にのみ記載してください。